

2-3. 名張市

1. 取組の全体像

1. 自治体の概要

①	自治体名	名張市	②	担当部局名	福祉子ども部 地域包括支援センター
③	人口	76,177(人) <令和 5 年 1 月 1 日時点>			
④	自治体内連携	庁内連携部局	環境、交通、農林、雇用等の関係部署		
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・ 高齢、障がい、児童、困窮、教育の各分野(分野エリア)で任命された 5 名のエリアディレクターがエリアディレクター会議を通して、関係部署や機関が行う支援方法の調整を行う		

2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

①	従前の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体の地域づくり活動が元来盛んで、平成 15 年に「地域づくり組織」が、平成 17 年に、地域の福祉サービスの拠点として「まちの保健室」が設置された。平成 27 年に設置した「エリアディレクター」を含めて地域福祉教育総合支援ネットワーク(孤独・孤立対策 PF としての機能を既に含む)として統合され包括的に運用されている。 		
	※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	調査	以前から取り組んでいたこと	PF構築に向けて取り組んだこと
		構想・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年度、高齢者を対象とした実態調査等を実施 ・ 住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PF 構成員とのワークショップを開催し、現状リーチできていないターゲット層を具体化 ・ 認知度、利用率向上に資するまちの保健室のリデザイン
		体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 層にわたる連携 PF が存在し、それぞれの PF をリンクワーカーがつなぐ 	—
	評価・検証等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数年に一度、3 層からなる PF の関係者が一堂に会する全体会議あり(エリア会議) 	—	—
②	実現したい状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に設立・運用している地域福祉総合支援ネットワーク(孤独・孤立対策プラットフォームとしての機能を含む)でリーチできておらず、いまだなお行政の施策や取組にアクセス困難な方々を支援につなげられている状態 ・ 既存の PF へ新しい参加者が加わることで、住民主体のプラットフォームが継続的に運営される仕組みが構築されている状態 ・ 孤独・孤立を抱えた人の災害時支援について実施すべき事項が明確化されている状態 		
	※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境			

3. 地方版連携 PF における連携体制

①	連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会、地域づくり組織(住民自治組織)、警察、生協、医療機関、支援対象者関係機関等 		
	支援団体名	選出・打診時の工夫	それぞれの自主性を醸成するように働きかける	協議体 (既設/新設) エリアディレクター会議・地域づくり代表者会議
②	支援団体との連携内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に 1 回の頻度で催されるエリアディレクター会議において、事例共有や対処法に関する議論を実施している。加えて、要支援者が確認された場合には、市役所が主導して関係者を集め、関係団体との調整を行って対応を進めている。 		

4. PF 連携による価値や工夫_考え方

- ・ 市が直轄で 15 地区(学校区域単位)に地域づくり組織・まちの保健室を設置し、地域密着型の細やかな支援や情報収集を行う基盤を作った。
- ・ エリアディレクター・まちの保健室・地域づくり組織という機能が異なる 3 層のプラットフォーム(地域福祉総合支援ネットワーク)を運用している。
- ・ 住民主体の地域づくり組織が地域課題を我が事ととらえ、課題解決を図る取組が進展している。
- ・ 持続可能かつより充実した取組を目指すために、市民の相談・アウトリーチのハブとなるまちの保健室を再デザインし、認知度や利便性を高める取組を実施していく。

◆詳細情報：当該自治体における従前の取組

【教福連携名張サミット 2016 の開催】

- ・ 孤独・孤立対策プラットフォームの原型となる名張市地域福祉教育総合支援ネットワークの立ち上げにあたり、地域や行政関係機関、各種団体が一堂に会し、当ネットワークの趣旨を確認するとともに、名張市の福祉・教育に関する取組を共有するためのキックオフ会議として、教福連携名張サミット 2016 を平成 28 年に開催した。
- ・ コメンテーターとして、鈴木三重県知事、永田同志社大学准教授、定塚厚生労働省社会・援護局長等が参加し、参加者の理解を深めた。

図表 教福連携名張サミット 2016 の様子

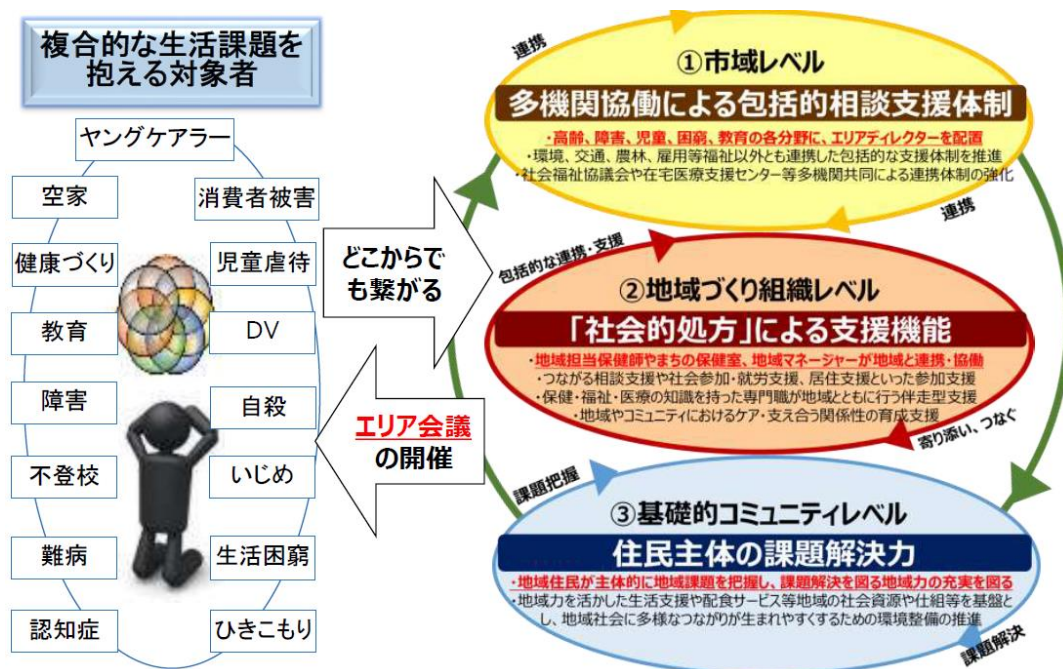


出所) 三重県地方自治研究センターHP <https://mie-jichiken.jp/wp/2016/11/15/post-3124/>
(2023 年 3 月 14 日時点)

【名張市地域福祉教育総合支援ネットワーク】

- ・ 複合的な課題や狭間の課題解決に向けて「地域福祉教育総合支援システム」を整備し、庁内横断的な支援体制とともに、各分野の関係機関から一歩踏み出した支援を引き出す分野を超えた支援体制を構築することで、多機関協働による取組を推進している。
- ・ 当ネットワーク（プラットフォーム）は大きく①市域レベル、②地域づくり組織レベル、③基礎的コミュニティレベルの3層から構成されており、これらの3層の仕組みが異なるレベルで機能することによって、実践的な支援の仕組みが実現している。

図表 名張市地域福祉教育総合支援ネットワークイメージ

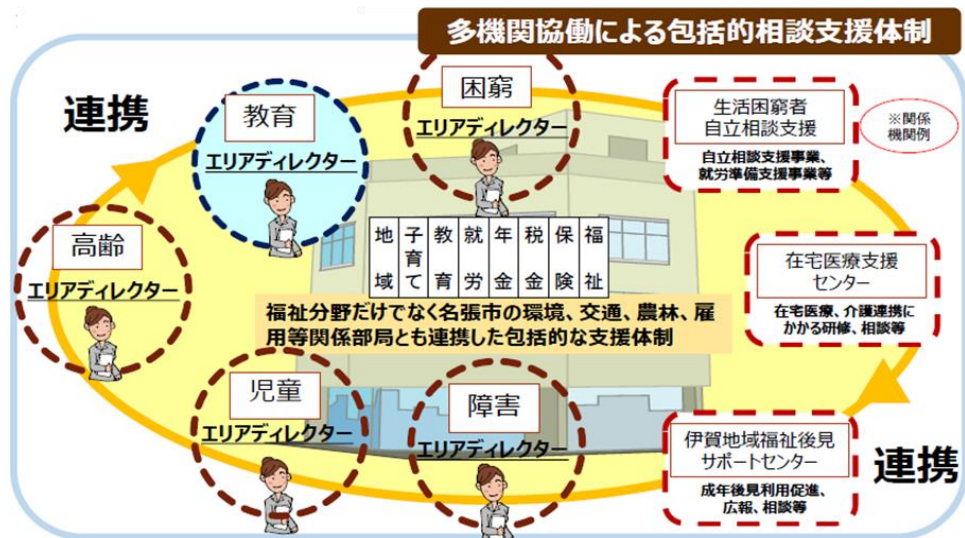


出所)名張市 HP <https://www.mhlw.go.jp/content/nabarishi-r3.pdf>(2023年3月14日時点)

【市域レベル：エリアディレクター(名張市相談支援包括化推進員)会議】

- ・ 複合的な生活課題を抱える対象者に対し、高齢、障がい、児童、困窮、教育の各分野で任命された5名のエリアディレクターが、エリア（分野エリア）ディレクター会議を通じて、関係部署や機関が行う支援方法の調整等を行う。
- ・ エリアディレクターは縦割りの関係者から一歩踏み出した支援を引き出し、それらを積み重ね、地域の課題解決力を高めることを目的としている。

図表 エリアディレクターのイメージ

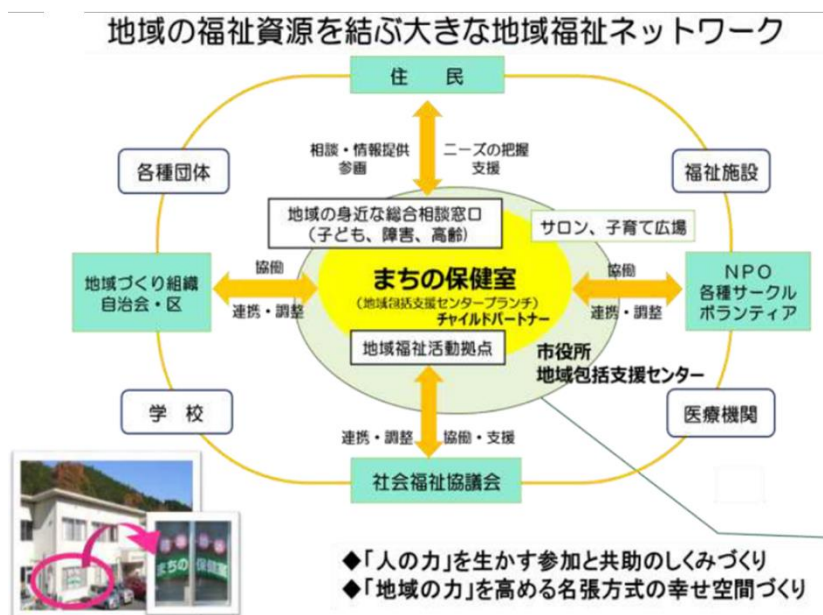


出所)名張市 HP <https://www.mhlw.go.jp/content/nabarishi-r3.pdf>(2023年3月14日時点)

【地域づくり組織レベル：まちの保健室】

- ・ 市内の 15 区域（概ね小学校区）には市直轄運営の「まちの保健室」が設置されており、地域に密着したサービスを提供可能な体制が整備されている。
- ・ まちの保健室は平成 17 年に名張市「第一次地域福祉計画」に基づき設置され、今日にいたるまで地域福祉活動の拠点としての役割を果たしている。
- ・ まちの保健室は市が直接運営を行い、平日の 9 時から 17 時の間まで利用が可能となっている。
- ・ 行政機関の窓口でありながら、日々の活動であらゆる世代や地域組織とのつながりを持つまちの保健室は、地域と行政の情報を合わせ持ち、専門的な相談に対しては適切な窓口を案内し、相談内容によっては徹底的に寄り添って話を聞くという総合相談窓口として機能している。

図表 まちの保健室イメージ

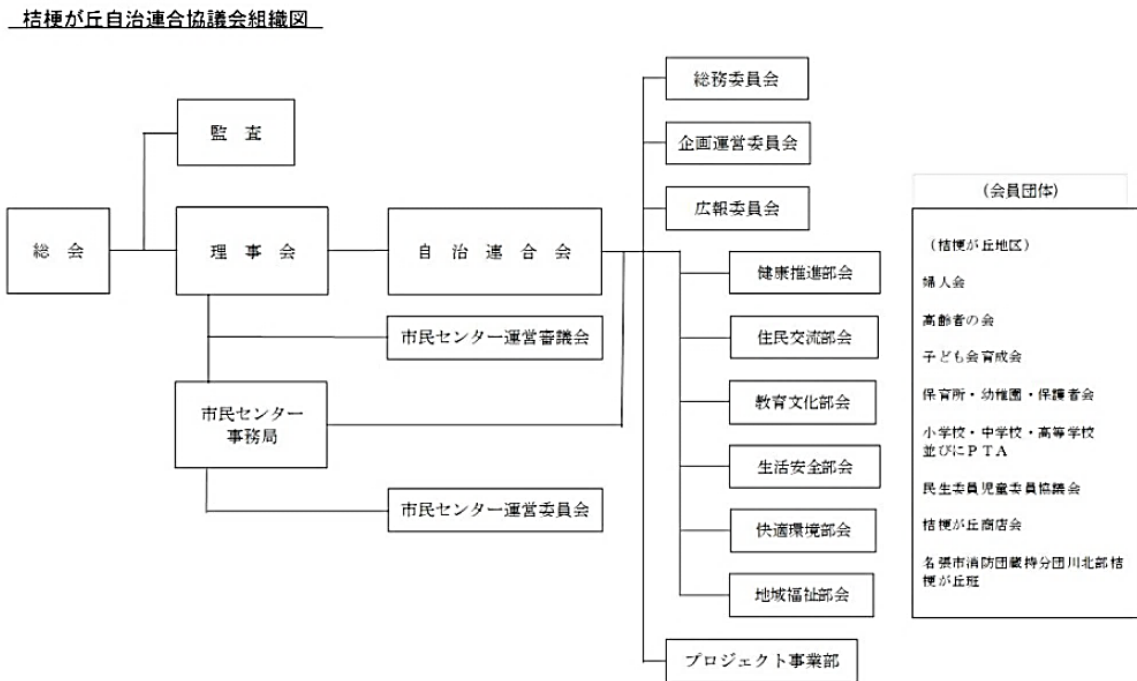


出所)名張市 HP <https://www.mhlw.go.jp/content/nabarishi-r3.pdf>(2023年3月14日時点)

【地域づくり組織レベル：地域づくり協議会】

- ・ 名張市では 15 の地域（まちな保健室と同様）に地域づくり協議会が設置され、地域で暮らす人々
が中心となって地域の課題解決に向けた取組を実践するための仕組みや雰囲気醸成されている
（都市内分権組織として機能している）。
- ・ 従来、地域の各団体に交付されていた地方交付金を統合して用途の自由な「ゆめづくり地域交付金」
として交付している。
- ・ 2021 年時点で地域住民の高齢化率が 50%に達する地域が 15 地区の半数を占めており、今後の持続
可能な地域づくり協議会の在り方や、相互支援体制の構築等が課題となっている。

図表 地域づくり組織の組織図例



出所)大阪市立大学大学院「三重県名張市の先進施策に関する調査報告書」2021 年 8 月

図表 各地域の地域づくり組織の特徴

地域名	地域づくり組織名	地区の特徴	人口(人)	高齢化率(%)
名張	名張地区まちづくり協議会	市の中心地	6,204	47.4
鴻之台・希央台	中央ゆめづくり協議会	市役所所在地、新興住宅地	2,767	13.5
蔵持	蔵持地区まちづくり委員会	農村部と住宅団地	3,553	43.3
梅が丘	川西・梅が丘地域づくり委員会	住宅団地と農山村部	6,763	34.6
薦原	薦原地域づくり委員会	農山村部と住宅団地	2,044	54.5
桔梗が丘	桔梗が丘自治連合協議会	住宅団地	13,948	50.1
美旗	地縁法人美旗まちづくり協議会	農村部と住宅団地	8,075	48.1
つつじヶ丘	つつじヶ丘・春日丘自治協議会	住宅団地	10,680	50.7
国津	国津地区地域づくり委員会	農山村部	570	97.9
比奈知	ひなち地域ゆめづくり委員会	農村部と住宅団地	4,843	52.9
すずらん台	すずらん台町づくり委員会	住宅団地	3,640	45.1
錦生	地縁法人錦生自治連合会	農山村部(一部住宅団地)	1,543	69.8
赤目	赤目まちづくり委員会	農村部と住宅団地	3,624	60.1
箕曲	箕曲地域づくり委員会	農山村部(一部住宅団地)沿道商業地	2,773	48.3
百合が丘	一般社団法人青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会	農山村部と住宅団地	7,364	41.4

出所)大阪市立大学大学院「三重県名張市の先進施策に関する調査報告書」2021 年 8 月

2. 連携 PF イメージ

5. 連携プラットフォームのイメージ図



◆詳細情報：連携プラットフォームの内容説明

(前頁の「連携プラットフォームのイメージ図」に対応)

【取り扱う問題】

- ・ 平成 27 年に設立し、運用中の地域福祉総合支援ネットワークでリーチできておらず、未だなお行政の施策や取組にアクセス困難な方々を支援すべき重要な対象とする。
- ・ 住民主体の組織である地域づくり組織は、1 回/2 月の頻度で開催される地域づくり代表者会議にて行政との意見交換を行う上で重要な組織体である。プラットフォームの構成において重要な役割を果たすこの住民主体の地域づくり組織について、今後も継続的かつ持続可能に運営するための在り方について検討するために、まず地域の現状認識を深める。

【背景・方針】

- ・ 既存のプラットフォームにおいて、市直轄で運営されており、地域住民との接点として重要な機能を果たすまちの保健室は、過去 10 年間で相談実績件数が 2 倍以上に伸びている等、確実にその役割を遂行していることができて一方、相談者の属性としては高齢者が多く、若者が少ない等の偏りがあった。そこで、これまでリーチできていなかった方々へのまちの保健室の認知度・利用率向上を図るため、現在リーチできていない人物像の特定や、認知度向上に資する統一的なまちの保健室のデザインの作成を検討する。
- ・ まちの保健室と同様に 15 地区に設置されている地域づくり組織の取組や機能は、プラットフォームの基盤となっている一方で、少子高齢化の一層の進行にあたり、これらの組織の持続可能な在り方が問われている。そこで、まずは 15 地区のうち 1 地区を取り上げ、今後の運営を考えるにあたり、まず地域住民の現状認識を深める取組を検討する。

3. 試行的事業一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> 40 名程度の PF 関係者を集めてワークショップを行い、既存のプラットフォームでリーチできていない層の特定を行うことで改善の方向性を明確にした。 15 区ある市内の地区ブロックの 1 つを取り上げたワークショップを行うことで、孤独・孤立の問題をより具体的に議論できるように工夫した。 				
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI		実施時期	発注先
①	「まちの保健室」のリデザイン及び地域共生社会の取組発信	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくり・地域福祉活動の拠点である「まちの保健室」をより身近で訪問しやすい窓口とするためのリデザインを行う。 地域広報を活用して、当事業を含む名張市の取組について市民向けに改めて周知を行う。 <p>【制作物内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの保健室のロゴデザイン、広報 web ページ <p>【部数・配付方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の市内広報物に合わせて全戸に配布応体制を構築 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を抱えながらも支援につながることでできない方がまちの保健室の存在を認識し、活用できる状態となることを目指す 	<p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者アンケートや、認知度について多様な手法候補を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年 1 月初旬から 2 月下旬まで 	studio-L
②	孤独・孤立の問題の共有化のための研修	<p>【講事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立の問題を取り上げた住民向け、市職員向けのワークショップの実施 <p>【ワークショップ内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民向け:孤独・孤立に係る問題が特に顕在化するケース(災害時等)を想定したディスカッションを実施 市職員向け:平時からの孤独・孤立対策に関する講義・ディスカッションを実施 <p>【参加人数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各 40 名程度 	<ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立対策という視点から見たときの地域の状態や地域資源についての認識を深め、地域住民の平時からの問題対策意識を醸成する 孤独・孤立対策の重要性における市職員の理解度を高めることで、支援の機運を醸成する 	<p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ参加者の孤独・孤立の問題への理解度の向上(アンケート調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年 1 月初旬から 2 月下旬まで 	studio-L
<h4>7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙</h4>						
<ul style="list-style-type: none"> まちの保健室のリデザイン事業で作成したロゴや看板等を実装し、これまでリーチできていなかった層への支援を進めていく。 15 地区のうち 1 地区(赤目地区)で行った孤独・孤立の共有化のための研修を他の 14 地区にも展開し、各地域づくり組織の孤独・孤立の問題や今後の持続可能な運営・支援体制の在り方に対する理解を深める。 						
<h4>8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響</h4>						
<ul style="list-style-type: none"> 今後、当事業の成果を市の広報誌等を活用しながら周知していく。 						

◆詳細情報：試行的事業の実施結果

【まちの保健室のリデザイン】

- ・ まちの保健室の職員（40名程度）とのワークショップを開催し、①これから出会いたい人物像、②出会うためのデザイン、③まちの保健室にふさわしいテーマカラーについて、ブレインストーミング・ディスカッションを行い、リデザインのためのまちの保健室職員間の認識のすり合わせや現場のニーズ・課題の抽出を行った。
- ・ ワorkshopによって得られた情報からまちの保健室の新しいロゴを製作し、またその認知度向上に資する媒体として実装の要望の声が大きかった名刺、看板、トートバッグのデザインを行った
- ・ これらの取組の経緯や結果をニュースレターとして市内に広報した。
- ・ また一連の取組において、まちの保健室職員からは次のような意見が得られた。
 - 作成したロゴは手書きでも書けそうなくらいシンプルであり、優しさが伝わるデザインとなっている。
 - ロゴを見ると様々な方が孤独・孤立対策の支援の対象となっていることが一目でわかるようになっている。
 - グッズ展開等、今後のまちの保健室の更なる発展を考える良いモチベーションとなった。

図表 ワークショップのブレインストーミング・ディスカッションテーマ

ワーク：これから出会いたい人物像を考える

名張市まちの保健室がまだ出会えていない人はどんな人ですか？
 出会いたい人物像をイメージできる範囲で具体的にお書きください。

	現在の職業(職種、年収)	趣味(インドアorアウトドア、好きな音楽、雑誌、映画など)
年代	家族構成(独身or既婚、子どもの有無、介護の有無など)	家族以外の人間関係
性別		
居住地	性格(価値観、目標など)	インターネット利用状況(使用しているデバイス、日々の利用時間、よく利用するSNS・サイト・アプリなど)
出身地		
学歴	生活スタイル(起床・就寝時間、通勤時間、食生活など)	休日の過ごし方
職歴		

ワーク：出会うためのデザインを考える

まだ出会えていない人と出会うためにはどのようなものやデザインがあるといいですか？下記から選択ください（複数選択可能）。

選択肢

- ・もの
- ・WEBサイト
- ・動画
- ・SNS
- ・言葉（キャッチコピーなど）
- ・仕組み
- ・その他

先ほどのワークで考えた人物像をイメージしながら記入しましょう！

ワーク：テーマカラーを考える

あなたがイメージするまちの保健室のカラーは、どれに近いですか？
 近いと思う折り紙の色をグループで選んでください。
 なぜその色が良いかという理由を付箋にご記入ください。



図表 まちの保健室ロゴデザイン



名張市まちの保健室 リデザインワークショップ

第1回

日時 2023年1月6日(金) 13:30~16:30

場所 防災センター

名張市 | 地方版「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」推進事業 (内閣府)

ニュースレター vol.1

市民がまちの保健室と出会うためにどのようなデザインが必要かを考え、市民が孤独孤立の帽子や地域共生社会づくりについて認知する機会を増やすためのワークショップを開催しました。第1回目は、まちの保健室がこれから出たい人物像について考え、ロゴやテーマカラーについて意見を交換しました。



1.ワーク① これから出たい人物像を考える

まちの保健室が今まで出会ったことがなく、これから出たい人物像をイメージできる範囲で具体的に考えました。みなさんの意見を分析し、3人のペルソナにまとめました。

タイプ①

同級生とは合わない
中学生



タイプ②

ひきこもり歴が職歴
30代男性



タイプ③

まじめに職場と家の往復
40-50代男性



性格	<ul style="list-style-type: none"> まじめ おとなしい 人見知り 人に色々話せない 話せるのは近い友人だけ だけど誰かと関わりたい 半ひきこもり、半不登校 趣味はKPOP 	<ul style="list-style-type: none"> 強いこだわり おたく 繊細 基本ネガティブ 目標高すぎ 正義感強め 大卒か中退 30代男性 	<ul style="list-style-type: none"> まじめ 几帳面 決まった仕事をもくもくと 目標はない 人付き合いが苦手 口下手 大人数は苦手 高卒
家族構成 仕事	<ul style="list-style-type: none"> 両親、兄弟はいる 忙しい母親と2人暮らし →“家では1人” 	<ul style="list-style-type: none"> 両親と同居か独居 無職か自称YouTuber (所得は低め) 	<ul style="list-style-type: none"> 親と同居か独居 無職か工場勤務 (夜勤多め)
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 家族 	<ul style="list-style-type: none"> ネット友(ゲーム仲間) リアルにはない 	<ul style="list-style-type: none"> 職場の同僚
ネット利用	<ul style="list-style-type: none"> Twitter・YouTube Instagram・LINE 	<ul style="list-style-type: none"> YouTube・Twitter・LINE Netflix・Amazon Prime 	<ul style="list-style-type: none"> YouTube・LINE スマホゲーム
アクセス ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 年代別SNS・学校 本人宛の手紙 	<ul style="list-style-type: none"> コンビニ 	<ul style="list-style-type: none"> コンビニ・たばこ自販機 スーパー(お惣菜)

2.ワーク② 出会うためのデザインを考える

まだ出会えていない人と出会うためには、どのようなデザインやものがあるといいか考えました。

こんな意見がありました

①デザイン

- コンビニにポスター
- ホームページ
- SNS
- オンラインで相談できるようにする

②もの

- トートバッグ
- トイレットペーパー
- ジャケット
- キシリトールガム

3. ワーク③ ロゴマークを考える

さまざまなロゴを見て、どのロゴがまちの保健室にふさわしいかとその理由について考えました。

▼集計結果

1位 (15票)



- 色合いがカラフル
- 「全世代の相談窓口」、「何を相談したらいいか」がロゴを見ただけで分かる
- 字が大きい。単純でぱっと目に付く
- ロゴがかわいい

1位 (15票)



- 元気が出る！
- 明るくていい
- わかりやすい
- シンプルで目立つ
- 虹は幸せのイメージ。まち保に来て小さな幸せを見つけてもらえたら

1位 (15票)



- 老若男女年齢関係なしによいと思った
- ほのぼのする
- 見てホッとする
- 生活する中のすべての相談所と分かるように生活感のあるものにした

2位 (9票)



- かわいい
- 絵でいろんな人が相談できると分かる
- 温かみが伝わる。絵に惹きつけられる
- このデザインでカバン、服がほしい！

▼まとめ

- ・「だれのための・どういうところか」が伝わるロゴがいい
- ・「相談に来た人が元気になるほしい」という思いが伝わるロゴがいい
- ・「明るく・かわいい」ロゴがいい、グッズ化したい

4. ワーク④ テーマカラーを考える

グループごとにまちの保健室にふさわしい色を考えました。

	ふさわしい ←	→ ふさわしくない
グループ1		
グループ2		
グループ3		
グループ4		
グループ5		



50色の折り紙を使ってふさわしい色～ふさわしくない色を並べていきました！

▼ふさわしい色まとめ

メイン：ピンク～オレンジ



補色：薄いブルー系



名張市まちの保健室 リデザインワークショップ

第2回

日時 2023年2月7日(火) 9:00~12:00

場所 教育センター

名張市 | 地方版「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」推進事業 (内閣府)

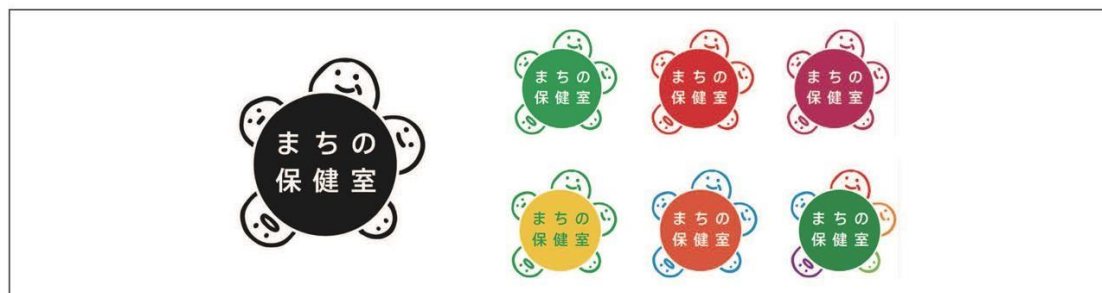
ニュースレター vol.2



第2回目は、ロゴの感想について共有し、ロゴを使用したトートバック、看板のデザインを話し合いました。また、まち保について広報するためのキャッチコピー、ホームページ、LINEの活用方法について話し合いました。会場は、皆さんの熱い思いと面白いアイデアにあふれていました！

1. ロゴの感想を共有しよう

デザイナーさんに提案いただいたロゴを見た感想を共有しました。



項目

かわいい(20)
わかりやすい(16)
癒し・温かい・優しい(14)
展開ロゴについて(14)
楽しさ・ワクワク・ワイワイ(9)
顔がいい(3)
話題のきっかけになる(2)

意見抜粋

いろんな表情があってかわいい！
誰もが真似して描きやすそう、手書きでも書けそう
丸い線で可愛らしさと優しさで溢れている
用途によって形や色を変えられるのがいい
自分たちでグッズを考えて販売したい
いろんな人を対象にしているとわかる
あの子の名前は？と会話のネタになりそう

■ みなさんからの意見をふまえ、こんなデザインになりました！



2. トートバックのデザインを考えよう

大きさ・形

- ・ まちは 15cm 以上希望
- ・ A4 すっぽりサイズ
- ・ 縦型の希望が若干多い
- ・ 底はしっかり（底板）、底に鉄
- ・ 持ち手は肩掛けができる長さ
- ・ 自立する

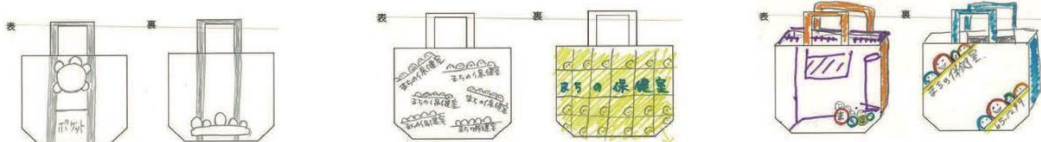
素材

- ・ 丈夫な素材（帆布・ターポリン）希望、かつ軽いとよい
- ・ 洗濯できる！
- ・ 防水、撥水（雨で中の資料が濡れることがよくあるから）

付属品

- ・ できればななめがけ出来る金具とベルト
- ・ 内、外ポケットは多ければ多いほうがよい（3つ以上）
- ・ ペットボトル（水筒）を入れるポケットが欲しい
- ・ タブレット入れるポケットが欲しい（クッションをつけて）
- ・ カバンの口にチャック、ファスナー、ボタンをつけてほしい

■ みなさんが考えたデザイン案



■ みなさんからの意見をふまえ、こんなデザインになりました！



大きさのイメージ



3. 看板のデザインを考えよう



見た目

- ・いつでも出しておける看板がいい
- ・カフェのような看板がいい
- ・目立つようにしたい
- ・15時以降は透明でカラフルに光る看板だとい

倒れない

- ・倒れないようにしてほしい
- ・風で飛んでいくので外に置けない

付属品

- ・看板の裏に黒板・白板・フック・マグネットがほしい
- ・裏面は自由にかけるといい
- ・メッセージボックスをつける

使い方

- ・イベントや出張まち保で使いたい(5)
- ・入口または入口までの導線に置きたい(6)

■ みなさんが考えたデザイン案



■ こんなデザインになりました!



■ 名刺と名札のデザイン



名刺



名札



4. キャッチコピーを考えよう



気軽に

- ・まあきてよ、まちの保健室(2)
- ・地域のみなさん、いらっしゃい
- ・ちょい・おじゃ・まち保(ちょっとおじゃまします)
- ・お気軽に〜よってってなあ〜

ホッとする

- ・ホッと一息つきませんか
- ・ほっとステーション(3) (まちの、あなたのそばの)

相談・聴く

- ・あなたのお悩み聞きます まちの保健室
- ・ききます、うけます、寄り添います あなたのまちの保健室
- ・あなたによりそえる場所まち保

つながる

- ・つながる名張の相談室
- ・つながるあなたとまちの保健室

さまざまな案が出ましたが、相談に来る人にも、用事はないけど来る人にも、まち保を知らない人にも「足をとめてもらう」一言であり、まち保も包括も合うと言っている一言が選ばれました。

「最近どお〜？」

5. ホームページのデザインを考えよう

現在は市役所の一部として発信されているまち保の情報。ホームページを活用してまだ見ぬ人に出会うためにも、伝えたいことを話し合いました。

メッセージ

- ・元気な笑顔がいい美人がいます！
- ・用事がなくても気軽に寄れる

デザイン

- ・明るい雰囲気
- ・親しみを持てるように

写真・動画

- ・写真つきでわかりやすくしたい
- ・YouTubeでまちほの紹介動画

場所

- ・目印の写真、入口の写真を入れる
- ・写真・動画があると安心して来られる

スタッフ

- ・各地区のまちほの顔がわかる
- ・写真かイラストをつける

イベント

- ・各地域のサロン、イベント情報
- ・日程の急な変更のお知らせ



トップページ



まち保とは



あなたの地域のまち保

【孤独・孤立の問題の共有化のための研修】

- ・ 孤独・孤立の問題を共有化し、また今後のプラットフォームの持続可能な在り方を考えるために、15の地域のひとつである赤目地区を取り上げ、住民（地域づくり組織）向けのワークショップを実施した。ワークショップにおいては、①近所の地図を描き、②近所に住む方々を書き、③近所の未来を想像するという形で一連のスタディを行い、10年後や20年後の地区の未来を想像することで、今後の地域づくり組織の持続可能な在り方を考えるための現状理解を深めた。
- ・ 孤独・孤立の問題について市職員向け、福祉専門職向けの研修を実施し、地域の諸問題を解決するための糸口となる地域点検の手法に関する理解を深めるとともに、地域内のつながりがどの程度存在するかを知り、そのつながりの維持や孤独・孤立の防止策についての検討の機会を設けた。
- ・ これらの取組についてニュースレターで市内に広報した。
- ・ 研修に参加した市職員、福祉専門職に対してアンケート調査を実施したところ、61%（22名）から孤独・孤立の問題に関しての気づきがとてもあったとの回答が得られ、また94%（34名）から今後の担当業務に活かせそうだとの意見が挙げられた。また以下のような具体的な声が寄せられた。
 - 地域の支援策について、拡大だけではなく、維持・最適化を含め整理が必要だと思った。
 - 今後の未来の支援策の在り方を考えるよいきっかけとなった。
 - 自分が住む地区（今回取り上げた赤目地区以外）においても同様の研修を実施したい。

図表 赤目地区で実施した住民（地域づくり組織）向けワークショップの内容

①ご近所の地図を描く ②家に住んでいる人を書く ③ご近所の未来を想像する



- ・まず道路を描く
- ・次に家を描く



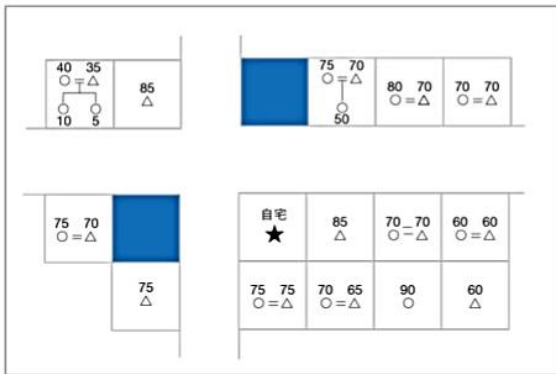
- ・夫婦、子どもの順で書く
- ・年代や職業を書く



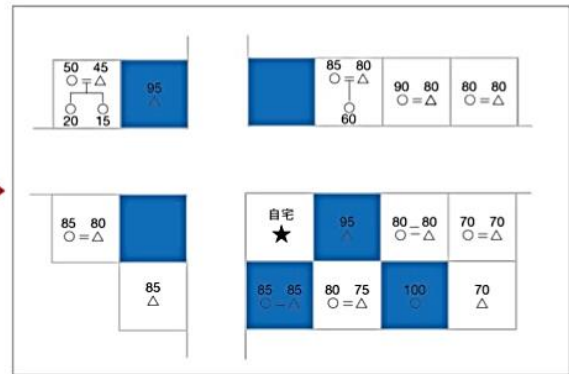
- ・やったほうが良いこと、できそうなことを出し合う

■ 空き家 ○ 男性 △ 女性

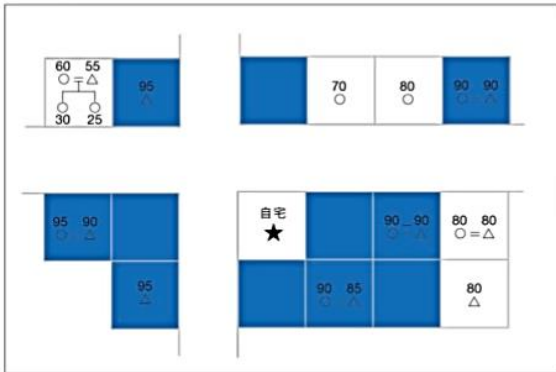
2023年



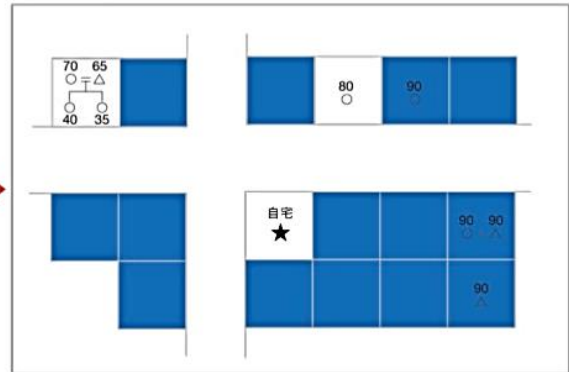
2033年



2043年



2053年



図表 市職員・福祉専門職向け研修会タイムテーブル

タイムテーブルシート 2022年度地方版「孤立・孤独対策官民連携プラットフォーム」推進事業 名張市職員研修			
日時：2023年2月13日（月）		【午前】9:00-12:00 【午後】13:30-16:30	会場：名張市防災センター 2F 研修室
<p>目的：①平時の孤立孤独の防止が、災害時の支援にも役立つという機運を醸成する。 ②地域の諸問題を解決する糸口となる「地域点検」の方法を学ぶ。 ③地域のつながりがどれくらいあるのかを知り、つながりの維持や孤立孤独の防止策を検討する。</p> <p>スタッフ：studio・L（西上、出野、本間）、名張市包括（柴垣、上田、武士垣外）・名張市危機管理室職員（稲垣） 参加者：午前の部 22人（内、保健師9名） ※副市長が10:00-10:30に参加 午後の部 20人（内、包括全世代職員3名、保健師3名） ※市長が13:30-14:30に参加</p>			
時間	プログラム	内容	担当（案）
9:00 (13:30)	ごあいさつ 【5分】	医療福祉総務室 福本室長	進行： 地域経営室 藤本さん
9:05 (13:35)	はじめに 【10分】	・研修の趣旨について ・全体の流れ ・スタッフの紹介 ・ステイホームダイアリーについて	説明：西上
9:15 (13:45)	映像鑑賞 【20分】	①防災と福祉に関する映像を視聴する（6分） ②感想を共有する（10分） ③解説（4分）	説明：西上
9:35 (14:05)	名張市の地図を描く 【5分】	各自で名張市のシンボルを1つ地図に描く（5分）	説明：西上
9:40 (14:10)	近所の地図を描く 【60分】	①ワークの説明（5分） ②ご近所（仕事で担当した地域）の地図を描く（10分） ③家に住んでいる人を書く（15分） ④地域の未来を想像する（30分） ・10年後、20年後、30年後はどうか想像する ・想像した感想を話し合う ・やったほうが良いこと、できそうなことを出し合う	説明：西上
<p>【午前の部 10:30】副市長が退席の際に一言いただく。 【午後の部 14:30】市長が退席の際に一言いただく。</p>			
10:40 (15:10)	休憩 【10分】		
10:50 (15:20)	全体に共有する 【25分】	グループの代表者がワークの意見を全体に共有する ※1グループにつき5分程度で発表する (5分×5グループ=25分)	進行：西上
11:15 (15:45)	まとめ 【20分】	「海士町の集落診断と集落支援について」 「参加・参画について」等について説明する	説明：西上
11:35 (16:05)	質疑応答 【10分】		
11:45 (16:15)	ごあいさつ 【5分】	医療福祉総務室 福本室長よりごあいさつ	進行： 地域振経営室 藤本さん

赤目地域 地域点検ワークショップ

日時 2023年2月7日(火) 14:00～16:30

場所 赤目市民センター

名張市 | 地方版「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」推進事業（内閣府）

ニュースレター vol.1

名張市では、あらかじめ避難場所、避難経路、サポートする人を定めた「個別避難計画」の作成を進めています。日常生活の中でも「近所のひとつのつながりがあれば…」と思うことが増えてきましたが、災害時の避難や被災したときの助け合いならなおさらです。今回は、赤目地区のみなさんに集ってもらい自分が暮らす地域の現状から10年、20年、30年先を想像する「地域点検」に取り組み、現状の確認と今からできるアイデアなどを話し合いました。



プログラム

1. 開会あいさつ
2. 災害時の地域のつながりを考える
3. 地域点検の進め方
4. 地域点検をしよう
 - ・地図に近所の情報を書き込もう
 - ・10年後を想像しよう
 - ・20年後を想像しよう
 - ・30年後を想像しよう
 - ・感想、できそうな事を話し合おう
5. 「個別避難計画」が必要なワケ
6. 終わりのあいさつ

1.開会あいさつ



北川裕之市長

災害発生時の避難において、支援が必要な高齢者や子どもが多くいます。個別支援計画の作成に向けて、地域の様子を見ながら、皆さんの意見を伺いたいと思っています。



赤目まちづくり委員会
藤村純子会長

災害で本当に助けなければならない住民のリストを作るため、赤目地区にモデルになってほしいと言われました。災害時に役に立つ組織リストをつくり、互いに助け合える地域になるといいなと思っています。

2.災害時の地域のつながりを考える

知的障害を持つシングルマザーとその幼い娘が、浸水によって命を落してしまうという内容の動画を視聴しました。2人は福祉サービスを利用していたが、相談員からの避難の指示が分からず逃げ遅れました。相談員は「もし地域とのつながりがあれば、命が助かったかもしれない！」と言っていました。視聴後、参加者で互いの感想を話しました。



名張市役所 職員研修 成熟社会を生きる 行政職員のための基礎研修

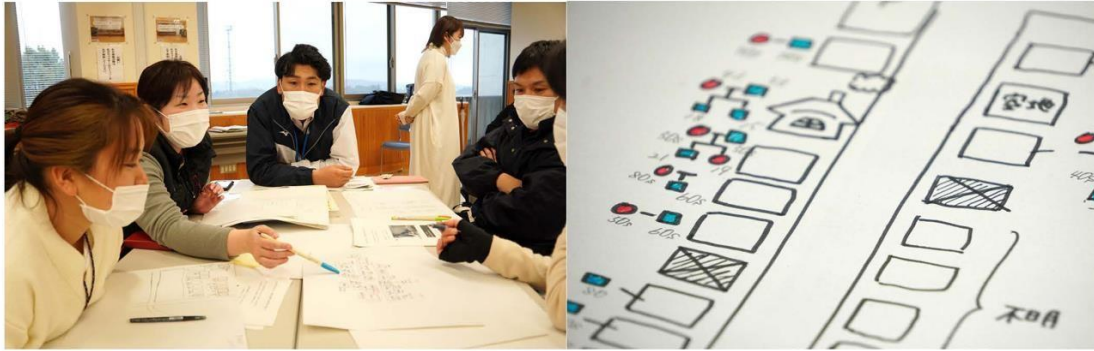
2023年1月6日(金)

場所：名張市防災センター

<1部>9:00 -12:00 /22名

<2部>13:30-16:30 /20名

名張市 | 地方版「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」推進事業（内閣府）



1. 職員研修の趣旨

研修プログラム

- ① 平時の孤立孤独の防止が、災害時の支援にも役立つという機運を醸成する
- ② 地域を知り解決の糸口となる「地域点検」の方法を学ぶ
- ③ 地域のつながりを知り、つながりの維持や新たなつながりづくりを検討する
- ④ 成長社会から成熟社会への変化を知り、今後の行政職員のはたらき方を想像する



医療福祉総務室
福本室長

普段は目の前の仕事をこなすので精一杯で、広い視野で考えたり、全体を見つめ直す機会を作るのが中々難しいのではないのでしょうか。名張の地域づくりの取り組みは2003年から始めて20年になります。全国でもトップランナーですが、これから先は人口減少や担い手不足などの問題が出てきて、10年、20年、30年先を見通して仕事をしていかなければいけなくなっています。今日は、部署間のつながりを見直し、地域住民に立ち返った時にこれから先地域をどうすると良いかを楽しく話していければと思います。

災害発生時の地域のつながりについて考える動画の視聴と感想



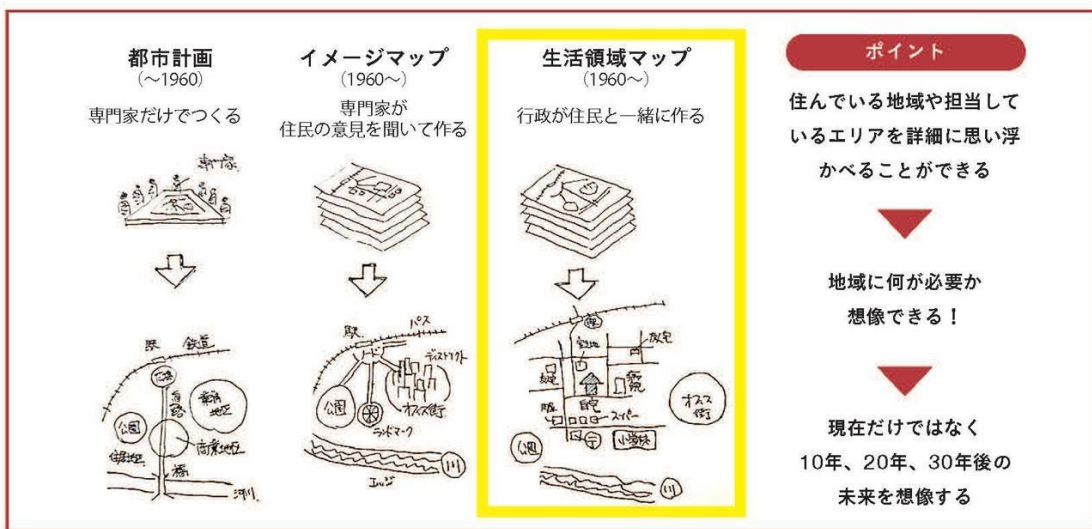
2018年に発生した西日本豪雨において亡くなった方のうち、8割が高齢者や障害者など自力避難が難しい要支援者でした。今回の動画では、浸水によって命を落とした知的障害を持つシングルマザーとその幼い娘が紹介されました。2人は福祉サービスを利用していましたが、相談員からの避難の指示が分からず逃げ遅れました。映像の視聴後に各グループで感想を共有しました。「近所の関わりや声かけが大事」「災害訓練に福祉サービスの必要な人がつながるにはどうしたら良いか」などの声が聞かれました。

2.地域点検とは何か？

いまなぜ地域点検をするのか？

かつての都市計画は都市の中の大きな構造物やその住んでる人が「この町らしい」とイメージするものを新しくしたり綺麗にしたりすることで、まちが良くなったという印象が持てました。名張であれば、赤目の滝をイメージする方が多いのではないのでしょうか。

しかし2000年以降は、町のある部分だけをよくしても住民が満足しなくなりました。この時に大事なことは、住民がもしくは行政の職員が住んでいる地域や担当しているエリアを詳細に思い浮かべることができ、地域には何が必要なのかを想像がつく状態ができているということです。これは災害時にも役に立ちます。「地域にどんな人が住んでいて、その人たちはどのように生活しているか」を専門家ではなく行政と住民と一緒に地域点検し、現在だけでなく未来を想像することが大切になっています。



地域の30年後を想像するワーク

参加者ごとに住んでいる地域の地図と住んでいる人を書き、将来はどのようになっているか想像しました。

ワークの手順

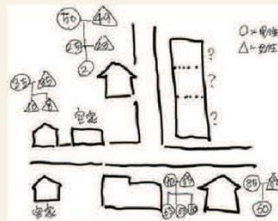
①ご近所の地図を描く

- ・道路を描く
- ・家を描く



②家に住んでいる人を書く

- ・夫婦、子どもの順で書く
- ・年代や職業を書く



③ご近所の未来を想像する

- ・10年後、20年後、30年後はどうか想像する



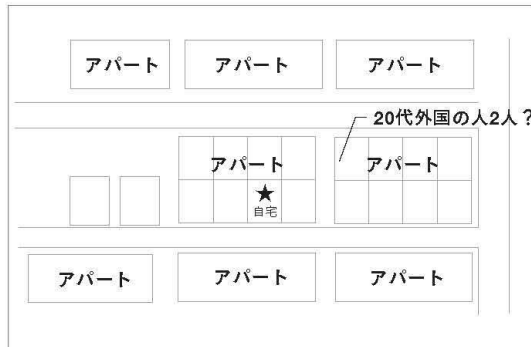
85歳以上は亡くなったとみなします

④想像した感想を話し合う、やった方がいいこと・できそうなことを出し合う

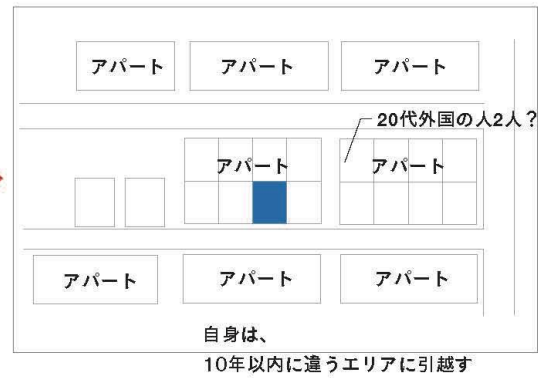
A.30代男性アパートで一人暮らし/周りの住民のことを誰も知らない

■ 空き家

2023年



2033年



気づいたこと

- ・住んでいる人を覚えていない世帯が多い。
- ・アパートは入れ替えが多くて近所付き合いできていない。
- ・単身世帯は仕事で忙しく、周りに関心を向けられない。

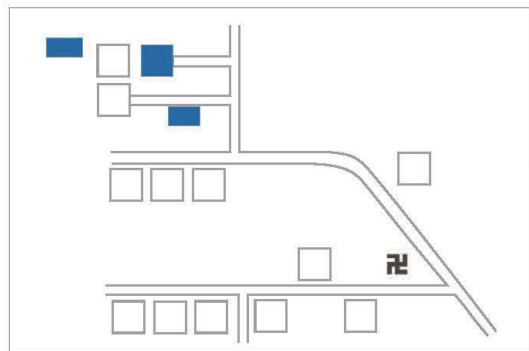
取り組むといいこと

- ・近所の人にあいさつする
- ・どこでも移住できる人に向けて、暮らしの情報や地域の魅力を知ると移住をおすすめしやすい。
- ・地域で飲み会をする。

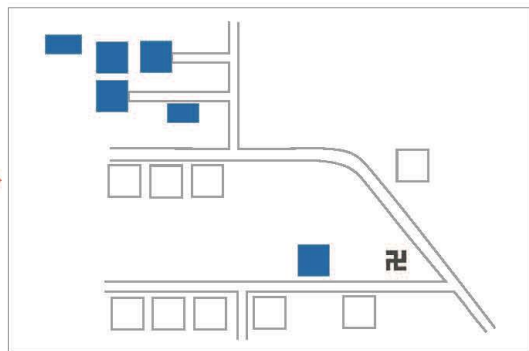
B.農村地域/少しずつ空き家が増えていく

■ 空き家

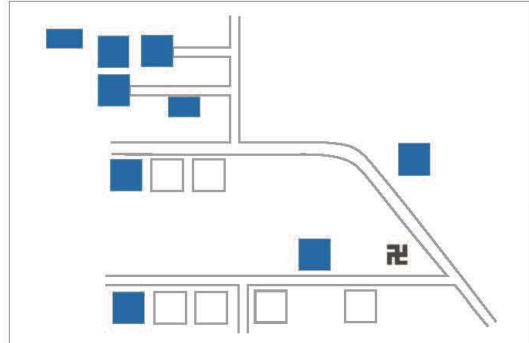
2023年



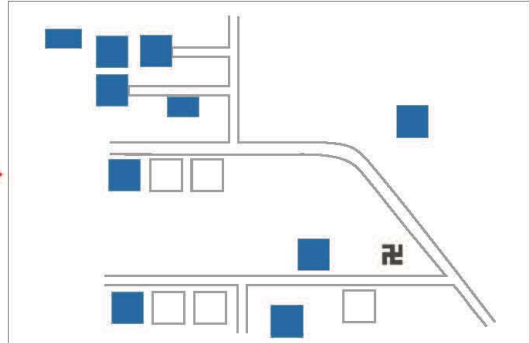
2033年



2043年



2053年



気づいたこと

- ・結婚すると近所に関心を持つようになる。
- ・少しずつ空き家が増えていく。
- ・田舎なので、減ることはあっても家が増えることはない。
- ・子どもが残るかどうかで空き家になるかどうか分かれる。
- ・子どもたちは付き合いや関係性が嫌なのではないか。
- ・役を引き継げる人がいない。
- ・高齢者は免許返納すると買い物が大変。

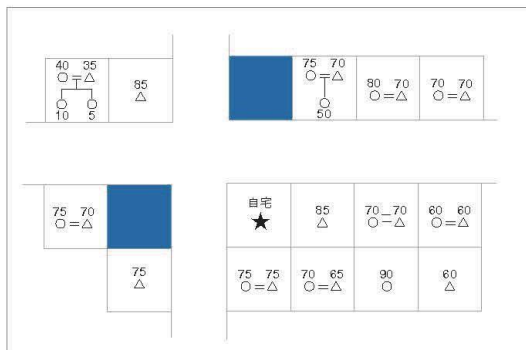
取り組むといいこと

- ・近所で負担を分散させる。何人かのキーパーソンが必要。
- ・地域のLINEグループを作る。
- ・地域活動をおもしろくする。
- ・コミュニティバスを導入する。
- ・生活に必要なサービスを呼ぶ。
- ・リユースなど地域で循環させる。
- ・地域をあげて婚活をする。

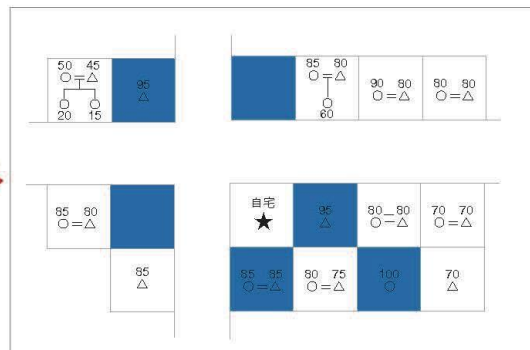
C.住宅団地／同時期に同年代が家を建てたため30年後にほぼ空き家になる

■ 空き家 ○ 男性 △ 女性

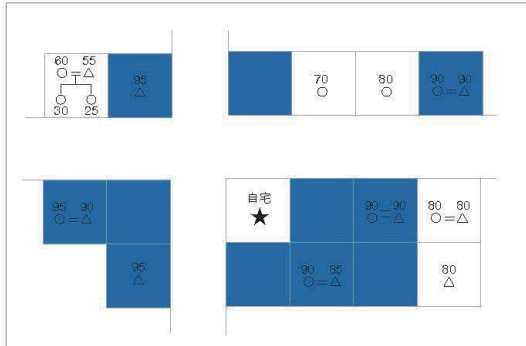
2023年



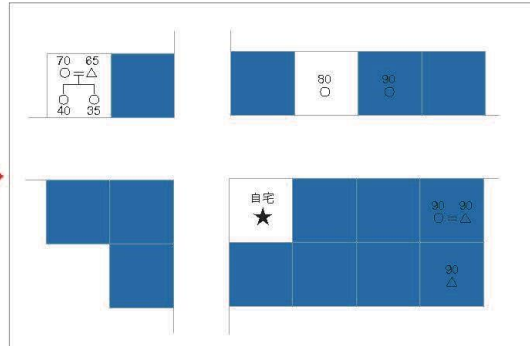
2033年



2043年



2053年



気づいたこと

- ・書き出すと空き家が目に見えてわかる。
- ・意外と高齢者が多い。
- ・市内団地は同世代ばかり。
- ・団地は一気に空き家が増える。
- ・同じ年齢構成だと自分が高齢になると周りも同じになる。
- ・30年後に同世代ばかりの地域は助け合えるか不安。
- ・新しくできた住宅団地に住んでいるが、自分と同じ年代の人以外の世帯の状況がわからない。

取り組むといいこと

- ・引越しのあいさつ、普段のあいさつの次の段階を考える。
- ・同世代が戻れるように地域イベントを発信する。
- ・隣近所の子どもと仲良くし、30年後も連絡できるようにする。
- ・自分の子どもが帰ってくるように声をかける。
- ・子どもの頃から地域の面白さを感じてもらう。
- ・外国の方ウエルカム！日本語学習の場を作る。
- ・空き家バンクを活用する。

3.意見交換

地域点検をするメリット

市民

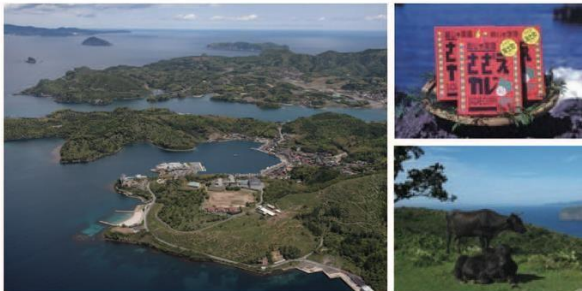
- ・名張市の未来を集落単位で点検することができる
- ・どんな市民でもご近所の様子や知っていることをイキイキと話することができる
- ・集落の現状と未来を10年単位で想像し、30年先の未来まで考えることができる
- ・課題や取り組みたいことが見え、等身大でできることがわかる
- ・サービスにつながっていない人の孤立孤独を発見できる
- ・ご近所が気遣う、声を掛け合うきっかけをつくる

行政職員

- ・各課の職員が地域点検に取り組むことにより、地域の課題も資源も高解像度で把握できる
- ・把握した情報をもとに名張市の目指す未来を共有することができる
- ・課を超えて職員が名張市の未来を見据えたはたらきかたを話し合うことができる
- ・職員が孤立孤独に陥っているケースもあり、職場内や地域に仲間を見つけることができる

4.先進事例の紹介（島根県海士町）

海士町（あまちょう）は、地域活性化で有名な島根県の離島（隠岐諸島）です。



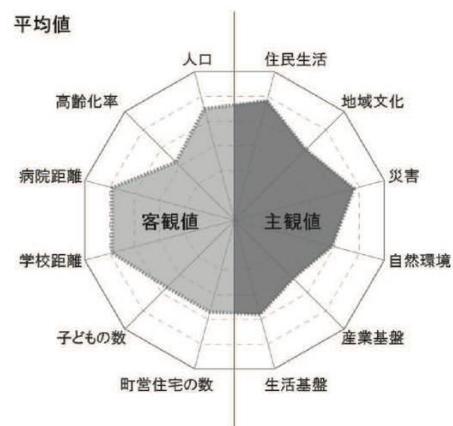
海士町の基本データ

- ・人口：2300人
- ・高齢化率：38%
- ・集落数：14集落
- ・学校：小学校2校、中学校1校、高校1校
- ・診療所数：1か所

地域点検の結果

2010年度に海士町の集落支援を開始し、集落の自主運営能力を高めるための基礎調査を実施しました。基礎調査は阪神淡路大震災後に兵庫県が各市町村に実施した自治体診断を応用し、数字だけではなく地区住民の気持ちをセットで考えるため、客観値（統計など）と主観値（気持ち）からなる診断項目を設定しました。

支援を希望する集落には集落の状況に応じて ①活性化策（ものづくり・観光）、②維持策（生きがいづくり）、③縮小策（終のすみかづくり）の3つの集落支援策から検討し、支援を実施しました。





集落の未来について話し合う



縮小策

事例1：多井地区 - 出郷者に送る近況報告の手紙の作成



集落調査の結果、お盆や正月など定期的に帰ってくる人が多いこと、出郷者のうち1割は定年後Uターンしていることがわかりました。数年に一度戻ってくる人を減らさない対策が必要と考え、出郷者と緩やかなつながりを作るため、集落の近況を手紙で伝えることにしました。



2年目にはデジカメやプリンターの勉強会を実施し、切って貼って自分たちにできる方法で手紙を作成しました。区民全員の顔写真と手書きのメッセージを添えて手紙を送りました。お礼の返事が6通届き、つながりが目に見える形になりました。

事例2：東地区 - 災害時の住民同士の支援体制づくりと暮らしの手帖づくり

災害時の住民同士の支援体制づくり



災害時要援護者登録をし体制づくりをしてきましたが、実際に活動できる体制ではなかったため、災害時に住民同士で支援できるように、区独自の体制を作ることになりました。

- ①災害時要援護者ヘライフジャケット配布
- ②心肺蘇生法の訓練

暮らしの手帖づくり



若い人たちの戸惑いを解消するため、暮らしの手帖を作りました。地区の総会や活動について、暮らしの必須アイテム、集落の地図や行事、海士町で取れる旬の魚、ローカルルールなどが掲載されています。ローカルルールでは、例えば「朝の草刈りは集合時間の30分前に行き草刈りを始めること」など気持ちよく暮らすためのルールが書かれています。

5.成長社会から成熟社会へ

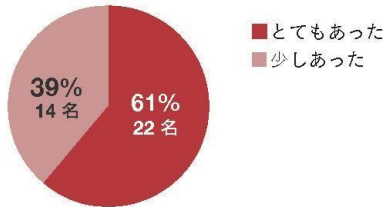
年代	成長社会			成熟社会
	1950～	1970～	2000～	2015～
背景	戦後 ・人口増加 ・戦後復興 ・モノ豊=幸せ	GDPが2位 ・高度経済成長 ・核家族化 ・バブル崩壊	人口減少 ・高学歴化 ・人口減少(2008) ・エコ、省エネ	消費的幸せ崩壊 ・情報化社会 ・多様性、個別化 ・シェアリングエコノミー
目的	焼野原から不足、不便、不満の解消	ニーズを見つけ住民が納得する関係	地域やテーマコミュニティと共創する	自己実現を支援し、まちのファンへ
行政：住民関係性	欲しい・こうしたいがある社会		欲しい・こうしたいがない社会	
関係性	1：多数	1：1	多数：多数	多数：1
ビジネスの事例	・家電3種の神器 ・マイカー ・カラーテレビ	・郊外マイホーム ・パソコン ・携帯電話	・AKB48 ・クックパッド ・食ベログ	・ZOZOスーツ ・マギーズセンター ・まちの保健室
人の思考生活	・みんな一緒に心強い ・仕事と生活は別(ワークライフバランス) ・区切られたオフィス、決められた場所と時間にはたらく			・みんな別々が心地よい ・仕事と生活の一体化 ・リモートワーク

出典：コトラー著「マーケティング5.0」加筆作成

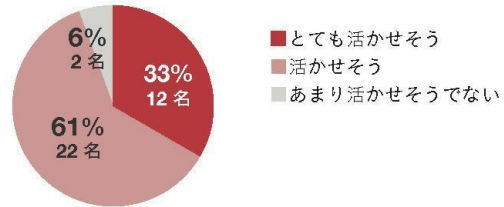
「成熟社会」とは、不安も不満もなくお金を払ってまで何かを手に入れたいと思わない人々が増えた社会のことです。成熟社会の中では処理できないほどの情報があふれ、多様性と個別化が進み、何でも新品を買うのではなくさまざまな人とシェアする経済が生まれました。1人の人が望んでいるものに対して、オーダーメイドのサービスをするということが良いとされる時代となっています。その中で、名張のまちの保健室は、1人の困っている人に対して、包括をはじめとした色々な職員が関わっているので、成熟社会の一つのビジネスモデルになっているのではないのでしょうか。

6.参加した職員の感想

今回の研修で気づきはありましたか



研修はあなたの担当する事業に活かそうですか



【近所とのつながりが大切】

- ・福祉サービスにつながっていても、緊急に助けが必要になった際に機能しない場合があること、改めて近くに住む住民との繋がりが大事であることを気付かされた。
- ・公的な支援があっても有事の時はいかに隣近所の繋がりが大切かよくわかった。
- ・地域点検をする事で、気づきがあり我が事の問題ととらえられる。改めて、つながりの大切を感じた。
- ・普段何気なく生活している自宅周辺の事もよく知らないことが分かった。今回分からなかった家庭の中に真備町のようなケースがあるのかも。
- ・自分の行動、生活について考えるきっかけとなった。このまま周囲のことをお互いが知らない状況を変える必要があると思う。

【他の地域やプロジェクトでも地域点検を実践したい】

- ・自分の担当地域や、居住地域で、同様の話し合いの場がもてたらいと思った。
- ・地域の担い手の方が高齢となってきたので今回のようなことを地域で展開して行くと色々な意見が出て良い。また、今までは高齢の方が中心で検討していたが、これだと若者が発見しやすい。
- ・分野は違うが今回の手法をアレンジする事で使えそうだと感じた。
- ・赤目をモデル地区として取り組んでいるが、他地域でも取り組めるとよい。またその場には小・中・高校生や若い世代の人もいるといいと思った。

【未来】

- ・今後の現実的なまちづくりを考えるきっかけになった。
- ・日々の業務に追われていて、なかなか思考するということできていなかった。次世代の子どもたちのために将来の名張市をつくっていくのは、今の私達だということを改めて感じた。
- ・子どもたちが大人になっても「名張が大好き」と言ってもらえるまちにしていきたい。
- ・自身のコミュニティにおいても気づきがあった。地元の獅子舞は天狗役を児童が担うようになっているが、ここでしっかりと子どもとつながりをつくること、そして、卒業してもつながりを保っていくことの重要性を感じた。

【地域の支援策についての学び】

- ・地域の支援策を拡大だけでなく維持、縮小含め整理していきたいと思った。
- ・縮小していく地域には、新たなことにチャレンジできるフロンティアが広がっていると考えれば、楽しくワクワクできる取り組みもたくさんしていけると考えられる。
- ・具体例にあったような取り組みを知ったら、やってみたいという気持ちも高まるかも…と、前向きに思えた。

【成熟社会についての学び】

- ・パワポ資料の「成長社会から成熟社会」のシート、「未来の公共事業とは」は、特に興味を持てる資料だった。
- ・効率化と対局にある、一見“ムダ”な余白のやりとりが大事になってくることを改めて感じた。
- ・オーダーメイドを求める社会全体のニーズが支援に時間をかけないといけない現状につながっている。

【楽しさなくして参加なし】

- ・担当する事業では、楽しく活動することを大切にしたい。
- ・地域での事業を展開していく際に、伝えたい趣旨と楽しいをうまく組み合わせていく必要がある。
- ・「楽しさなくして参加なし」このことを改めて心に落とし込んで職務に活かしていきたい。
- ・「楽しさなくして参加なし」という言葉が印象的である。「楽しさ」はただ言葉どおりの意味合いではなく、おいしい、うれしいといった有益なことで参加者の様々な感情に訴えることであるということ学んだ。
- ・楽しいこと、生きがいを見つけて生活できること。名張に住んでみたいと思えるまちづくりをしていきたい。
- ・人口減少や少子高齢化を迎える中、いかに縮小していくかを考えながら、楽しさを意識したまちづくりの取組が必要だと思った。
- ・楽しいを基準において、業務に取り組んでいきたい。
- ・今は成長社会だけでなく成熟社会でいろんな働き方、生き方の発見になった。やらなきゃいけないという使命感も大切だけど楽しさも必要であり、そんな事業を進めていくことが必要だと知れてよかった。
- ・これまで地域に主体的にかかわれてこなかったであろう若者（柔軟な考えを持つ人）とまちがつながれる仕組みを構築していくことが急務であり、そのキーワードがきっと「楽しさ」なのだろうと感じた。

【部署を超えたつながり】

- ・他部署の職員ともいろいろな意見交換を行うことができた。
- ・この場から生まれる部署別の職員の繋がりを形にしなければならなかったし、なってほしいと思う。
- ・一職員の能力や特技（興味や人生経験からの知識等）が縦横の部署を跨ぐつながりのきっかけになると思う。
- ・テーブルのグループだけのトークでも、所属を超えた地域課題に対する個人の考えや思いを共有する時間が生まれたので、具体性をもてば課題設定ができると感じた。
- ・赤目とはまた違って庁内のメンバーと話し合えてよかった。
- ・外見だけの判断では要支援者の対象者となるかどうかわからないことから部局間の情報連携が大切。
- ・支援しているケースは福祉サービスにつないで終わりになっていることが多くあったが、その人の住む地域や地域でのつながりにも目を向けて支援していきたい。個を通して他部署とも連携を図ってきたい。
- ・救急出動した際にひとり暮らしの方や、行政等が介助に入ったほうが良い案件があれば、関係部署へ気軽に相談できればよいと思う。

【他のプロジェクトに活かす】

- ・健康21計画の策定などに活かせたらいい。
- ・担当する事業では、皆で地域の問題を共有することが大切だと思った。

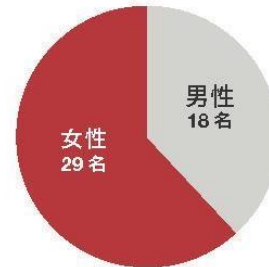
7.参加者の内訳

参加者の人数：42名、事務局の人数：5名 計47名

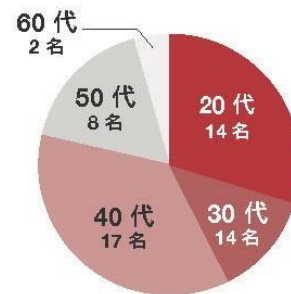
部署名		参加人数
議会事務局		1
統括監	秘書広報室	3
	危機管理室	2
	地域活力創生室	1
	総合企画政策室	1
総務部	総務室	1
	人事研修室	1
	契約管財室	1
	行政改革推進室	1
地域環境部	部長	1
	地域経営室	4
	人権・男女共同参画推進室	1
市民部	保険年金室	1
福祉子ども部	医療福祉総務室	2
	介護・高齢支援室	1
	障害福祉室	1
	地域包括支援センター	7
	健康・子育て支援室	9
	子ども発達支援センター	1
産業部	農林資源室	1
都市整備部	都市計画室	1
	営繕住宅室	1
消防本部	消防総務室	1
	予防室	1
	名張消防署つつじが丘出張所	1
上下水道部	下水道建設室	1

計 47

男女比



年齢構成



4. 連携PFの行程および実務上の留意点		
(ア) 初期段階		
①	担当部署の設定	<p>■ <u>社会福祉の推進や健康・福祉に関する相談や支援を行う地域包括支援センターが主導</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 15 地区の地域づくり組織と、まちの保健室の設置の完了(平成 22 年前後)と同時期に福祉子ども部地域包括支援センターが組織され、以後は当組織が主導している。
②	地域の現状把握	<p>■ <u>15 地区(概ね小学校区)に設置した市直営の拠点から日々情報収集</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 15 地区(概ね小学校区)に、市直轄の機関であるまちの保健室を設置し、要支援者の情報を含む地域の情報を収集している。 高齢者を対象とした実態を毎年度調査しており、70 代の単身世帯や孤立状況等の確認を行っている。
③	連携 PF の運営形態の検討	<p>■ <u>立ち上げたプラットフォームを柔軟に改善しながら運用を継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> PF 立ち上げ当初(エリアディレクターが設置された平成 27 年)は亀井前市長の強いリーダーシップもあり、市直轄での仕組みづくりや施策の実行がなされていた。 PF の運用を進める中で、市直轄では不足する点が徐々に明確となり、社協や警察等の外部団体との連携や、エリアディレクターの在り方の変更(所掌の在り方を 3 地域から 5 領域へ)、3 層の PF の隙間を埋める仕組み等が充実していった。 まちの保健室は平成 19 年の設立当初以来、その役割や機能はほとんど変わっていない(当初から目論見通り機能している)。
(イ) 準備段階		
①	運営方針	<p>■ <u>既存プラットフォームを維持・強化するため、地域ごとに設置する市直轄の拠点、並びに住民主体の自治組織に着目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 既存 PF においてアウトリーチの拠点として重要な役割を果たしてきているまちの保健室の認知度・利用率を一層高める。 高齢化の一層の進行が予測される中、既存 PF の一翼を担っている 15 の地域づくり組織の持続可能な在り方を模索する。
	主要機能・施策	<p>■ <u>異なるレベル(役割・役職)・目的を持った 3 層の会議体によりプラットフォームを構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 5 つの分野エリア(困窮、教育、高齢、児童、障がい)のエリアディレクター(庁内主任～係長級)によるエリアディレクター会議は 1 回/月の頻度で開催され、関係部局や機関の支援調整を行う。 まちの保健室は 15 の地域に 1 つずつ設置され、各拠点 2～3 名の職員が地域の窓口として日常的な相談・対応やニーズ等の情報収集の場としての役割を担う。既存 PF の維持・強化にあたり、これまでリーチできていなかった層のまちの保健室の認知度・利用率を高めるための方策を検討した。 プラットフォームの基盤となる住民主体の 15 の地域づくり組織は、それぞれが独自に代表者を任命し、行政の部長級や関係外部団体を交えた地域づくり代表者会議を 1 回/2 月程度の頻度で実施することで、必要な情報連携や議論を行う。既存 PF の維持・強化にあたり、これらの地域づくり組織の持続可能性を検討した。
②	庁内	<p>■ <u>必要な場合には関係部署に適宜連携可能な体制・仕組みを構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 直接的な福祉関係部署だけでなく、環境、交通、農林、雇用等の関係部署も適宜連携できる組織を醸成している。
	外部団体	<p>■ <u>市内団体に加え、市外の外部団体や県との連携も強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり組織、名張市社会福祉協議会、在宅医療支援センター、警察、生協等の市内の多様な外部団体だけでなく、伊賀地域福祉後見サポートセンター等の市外の外部団体との連携も強化している。 名張市から三重県に対して積極的に連携を提案している。

(ウ) 設立段階		
①	連携 PF 内での 連携・協業	<p>■3 層のプラットフォームによって密な情報連携を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり会議(1 回/2 月)の実施によって、住民主体の地域づくり組織と行政との情報連携の接点が創出されている。 ・ エリアディレクター会議(1 回/月)の実施により、5 分野(高齢、障がい、児童、困窮、教育)のエリアディレクターと外部団体との情報連携の接点を創出し、具体的な支援につなげている。 ・ 日常的な情報収集はまちの保健室にて実施している。
②	域内住民・関係団体 への情報発信	<p>■県コンクールの受賞歴もある工夫された市広報紙を使って情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の広報紙(県コンクールの受賞歴あり)を活用し、今回の試行的事業を含む様々な福祉の取組を市内全戸に発信している。 ・ Facebook や Instagram、Twitter 等によるメディアミックスを推進している。 ・ 地域づくり会議の場を活用することで 15 地区の地域マネジャーに周知を行い、各地域に情報を伝達している。
③	優先的に取り組む 課題・今後の方針	<p>■まちの保健室のリデザイン結果の実装や、プラットフォームの実動の中心となる 15 の地域づくり組織の持続可能な在り方の検討を進めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの保健室のリデザイン結果の広報・周知による認知度の向上と、現在リーチできていない層への支援を拡大していく。 ・ プラットフォームの実動の中心となる 15 の地域づくり組織の現状把握・将来予測(高齢化・人口減少による担い手確保の困難化)と、社会的手法の取り入れにより、これらの組織の持続可能性を高める。

コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

社会福祉法人名張市社会福祉協議会

- ・ 名張市社会福祉協議会は名張市にある社会福祉法人であり、地域福祉支援や福祉サービスを提供している。
- ・ 同協議会は低所得者世帯等に対する生活支援や居宅介護支援等を行っており、市民に対して直接的な相談支援事業にも取り組んでいる。

🔍行政と外部団体で補い合う

- ・ 福祉施策や孤独・孤立対策を考えたとき、生活福祉金の貸し付けやクライシスインターベンションのような緊急性の高い施策等、外部団体の方が行政よりも得意な領域は必ず存在する。行政と外部団体が相互補完することによって、全体としてよりよい体制を構築することができるのではないか。
- ・ 行政と外部団体がそれぞれ自身の得意・不得意、自身の保有しているリソースを認識することも重要である。

🔍外部団体、行政間で日々の情報連携を密に行う

- ・ 社会福祉協議会の窓口、市直轄運営のまちの保健室の窓口等、異なる窓口には異なる要支援者の情報や、個々の事例情報が集まってくる。適切な施策をタイムリーに実施していくためには、これらの異なる窓口で得た情報を適宜共有する仕組みが重要である。

🔍外部団体、行政間で目指す姿を共有する

- ・ 過去の経緯を顧みても、特に初期段階においては市長等が強いリーダーシップを発揮し、行政主体で仕組みづくりを行うことが必須だろうと考える。
- ・ 一方で、PF の継続的な運用にあたっては、行政と外部団体がより密接に連携することが必要となってくる。そのため、市が目指す姿や今後の方向性について外部団体と共有し、協議する場を有効に活用していくべきである。

🔍自ら考え、自ら企画する

- ・ 行政からの指示や依頼を受けて動き出すのではなく、自ら考え、自ら企画することで、外部団体としての存在感を発揮し、市のよりよい福祉の実現に貢献することができる。

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	議題
1	11/29(火) 10:30-12:30	名張市	事業説明、今後のスケジュール共有
2	12/13(火) 9:30-10:30	名張市	試行的事業案すり合わせ
3	12/23(金) 17:20-18:10	名張市 studio-L	試行的事業の仕様について
4	1/6(金) 13:00-18:00	名張市 studio-L	まちの保健室職員へのワークショップ
5	1/26(木) 11:00-12:00	studio-L 内閣官房	試行的事業内容、孤独・孤立対策への社会的手法の取り入れ
6	2/7(水) 9:00-16:00	名張市 studio-L	まちの保健室職員へのワークショップ、 地域住民(地域づくり組織)へのワークショップ
7	2/8(木) 9:00-10:30	名張市社会福祉協 議会	ヒアリング
8	2/8(木) 13:00-15:00	名張市	ヒアリング